

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200237		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	高崎市新保町377		
自己評価作成日	令和元年6月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和元年7月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の表情・仕草・言葉等から違いを感じ取り、記録・申し送り・職員会議で共有、理解しケアの統一、サービスの連続性を大切にしている。お手伝い等お一人お一人に出来ることをして頂き、活力ある生活が送れるよう笑顔の絶えない穏やかな生活の場を提供できるよう努めている。
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の入退職が多かったが、現在は就労状況も安定していて職員間の連携が良い。職員会議にも全員が参加し、支援の共有化が図られている。また、運営推進会議では地域からの出席者の発言が活発で、「散歩が少ない」「運営推進会議の家族の出席者が少ない」等、現実を見た意見が出ている。地域と事業所の関係性が良好であること、事業所が地域の中で孤立しないよう見守られていることがうかがえる。地域に開かれた事業所といえる。
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回出勤者と、毎月1回職員会議にて全職員で読み上げ共有しています。	利用者への声掛けも笑顔で優しく、無理強いをしない配慮ある職員の様子から、理念を理解していることがわかる。新入職員には理念の掲示場所を示し、指導する他、日常的に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンへ全員参加を目指し出掛け地域の方々や他の事業所との交流を図っています。運営推進会議にご家族様、地域の役員の方々、市役所の方に参加して頂いています。	利用者のほぼ全員がサロンに参加し、その代表者が運営推進会議に出席している。また、職員がサロンでの体操指導を依頼される等互いに交流を図っている。カラオケ等の慰問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域役員の方々やご家族様、またサロン等で地域の方々や他事業所と情報交換をし、ご理解して頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告・行事・活動状況の報告を行い、利用者様・ご家族様・地域役員の方々・市職員の方に質疑応答を行い、情報の共有をし、サービスの向上に反映出来る様努めています。	家族、区長、民生委員、サロン代表者、市担当者の出席の下、行事活動報告、現状報告の他、日頃から疑問に思っていることについて意見交換をし、介護施設に対する理解を得る努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いて、貴重なご意見を頂戴し、職員会議にて他の職員に発信しています。	法人の担当課長が窓口となって、行政と連携、協力体制を築いている。認定調査の立会い、家族から依頼があった場合は、介護保険の申請代行を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議で勉強・理解し絶対にしない姿勢で徹底しています。玄関の施錠については、ご家族様の意見を考慮し利用者様の状況を踏まえ取り組んでいます。	玄関は施錠しているが、開けておける状況にある場合は開錠している。2ヶ月ごとに運営推進会議で身体拘束について勉強会を開いている。スピーチロックについても意識した言葉掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で学ぶ機会や話し合いの場を設け、職員1人1人が虐待防止の意識を高める様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用の利用者様がおり、職員会議等で学ぶ機会を作っています。また他のご家族様にも、この制度についての発信をしていく様にします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時お互いに確認しながら説明をさせて頂き、理解と納得をさせて頂いています。また改訂毎に十分に説明をし、不安・疑問な点があればその都度説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様・利用者様に、常に意見や疑問が出来る環境を提供し、職員会議等で全職員に反映しています。	家族の意見を吸い上げるよう、利用者に変化がみられる家族との面談時、またケアマネジャーが直接話を聞くようにしている。利用者からも直接、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や面談の他、随時相談意見が出来る環境を作り、反映すべきものは全職員で話し合いをしています。	毎月の職員会議では勤続年数等に関係なく、自由に意見や提案をしている。また、年2回法人の面談があり、職員からの意見を業務改善、介助方法等における問題解決に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で、職員1人1人に担当を任せ、やりがいや達成感によって向上心が持てるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員や研修委員等の社内研修に参加し、職員会議等でも学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設の交流会に参加したり、地域のサロンにも参加し同業者との交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の方には契約前に、ご家族様と見学して頂けるよう促しています。また利用される方の不安や悩み等を傾聴し、信頼関係を築いて行けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、訪問時事前連絡を行う際には、要望や希望を傾聴し、開始までに良い関係作りが出来る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様のご意見やご要望を踏まえ、ホームに馴染んで頂けるような環境作りに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者お一人お一人の出来ることや得意な分野で、職員と協力しお手伝いをして頂けるよう努めています。また職員がご利用者様の理解を深めて行けるように、生活歴等を把握する努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活での変化をご家族来苑時、またはその都度報告・連絡・相談しています。いつでも来苑しやすい雰囲気作り、運営推進会議の参加声掛けに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご親戚、地域の方々お気軽に来苑して頂けるような雰囲気作りと、来苑時は気持ちよく過ごして頂けるよう努めています。	家族、友人、兄弟等面会者が多く、これまでの関係性に配慮している。趣味の継続は難しいが、信仰、新聞の購読、化粧、草むしりや花の手入れ等馴染みの生活を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に意見が出せる環境作りと、個々に合った環境作りが出来る様に勤め、トラブルにならない様に、職員で話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも来苑・連絡して頂けるような環境作りに努め、ご意見等は真摯に応じる様にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の表情や言葉にならない声に着目し、気付くよう努め、表面化された時は職員一同で共有・理解し、職員会議やカンファレンスで検討しご家族様へ報告・連絡・相談をしています。	どう暮らしていきたいか、これまでのこと、好きなこと、やりたいこと等、利用者の具体的な思いに耳を傾け、職員間で共有し、それらの実現と継続を支援するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様・ご家族様からの情報を傾聴し、全職員で理解・把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケア記録等で把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のカンファレンスを実施、ケアプランの見直しや状態変化等検討し反映しています。ご家族様に必ず連絡・相談をし、希望・要望を確認したうえで反映出来るように努めています。	介護計画については、毎月モニタリングし、職員会議でカンファレンスをしている。また、3ヶ月ごとに担当者会議を開き、計画の見直しをする他、利用者の変化や予防に伴った見直しを随時している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録への記載、申し送り、日々の意見交換等での情報を職員会議等で共有し反映出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の変化を感じ取り傾聴し、今後を見据えたケアの対応に努めています。お一人お一人に統一したサービスの提供が出来るよう、申し送り・職員会議を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(いきいきサロン)、近隣の保育園、他事業所等に参加され楽しまれている様子です。また外出・外食等計画実践しながら開放的な生活環境作りに努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の意見を反映し協力医療機関のDr.と意見交換を実施するようにしています。ご家族様が納得して頂けるよう、連絡・報告・相談しています。	入居時に協力医もいるが、家族が対応できる場合はかかりつけ医の継続ができることを説明し、ほとんどの利用者が月2回、また必要に応じて協力医の往診がある。訪問歯科の年2回の検診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に状態の報告・連絡・相談し不利益が生じないように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様や入院先の病院よりご利用者様の状態を伺い、把握に努めています。また希望があれば医療機関との情報交換等に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との面談時や訪問時・運営推進会議等で話し合いの場を設け、資料等配布し説明をし、その方に適したケアが行えるよう努めています。	重度化、終末期についての方針があり、利用者や家族に看取りの希望があれば、協力医も協力的であることから実施できることを段階的に説明している。勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で事例をあげ強会を行ったり、実際の対応で実践し身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の自主訓練と年2回の消防署の指導を受けながらの訓練を地域の方の協力で行っています。	夜間、日中の火災や災害を想定した年2回の防災訓練を消防署立会いの下実施し、毎月自主訓練も行っている。ご飯、缶詰、水、離乳食、レトルト食品等3ヶ月分を備蓄し、ガスコンロも用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室・排泄介助等介入が必要な時には、細心の注意を払い、人格を尊重した言葉遣いをするよう努めています。	利用者にもみられる病気や認知症状の有無によって、利用者間に力関係や負の感情が生じないように配慮し、失禁やパット使用等排泄について利用者の尊厳とプライバシーを守る取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に意見等言われています。発言が困難な方や自己表現が困難な方には、し易いような声掛けや等探りながらの支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で行う生活リハ・レクの他に、ご利用者様の意思を尊重し、個々の想うように過ごして頂けるような環境作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様お一人お一人の意思を尊重し衣類等は自由に選んで頂いております。訪問美容だけでなく、外出時の散髪や、ご親戚の方が来苑され散髪して下さるのを楽しみにされている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わえるような料理を取り入れ、週3回は食材を購入し、手作り料理を提供しています。食事の準備・片付け等、職員と会話しながら手伝ってくださる方もいます。	週4日は既成の食材を盛り付け、他は利用者の希望に沿った手作りの食事を提供している。その時季に合ったお節料理やおはぎ等伝統食や行事食、外食等で食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に注意し、食事のバランスを考え、利用者様個々に合った食事を提供し、食事量・水分量の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア声掛けをしています。ご自身でできないや仕上げ磨きが必要な方の支援をしています。義歯の方には義歯消毒・洗浄剤を使用し清潔に努めています。訪問歯科と連携し半年に1回の定期健診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態を把握しパット・リハビリパンツ・紙おむつ等の使用・不使用を、ご利用者様・ご家族様と検討していきます。排泄の感覚やタイミングを把握しながら自尊心を傷付けない声掛けをしています。	日中は排泄チェック表があり職員の誘導でほぼ全員がトイレで排泄している。夜間もポータブルトイレを使用することなく声掛けをしている。失禁の場合は、シャワー浴で清潔保持を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝提供しているミルクコーヒー、オリゴ糖、野菜等食物繊維豊富な食物を取り入れ、レクや体操等運動も取り入れています。また便秘傾向の方には訪問看護師や往診Dr.へ報告・連絡・相談し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日にゆっくり入浴して頂いてます。希望があれば考慮し、受診や外出前は必ず入浴して頂く等の配慮をしています。	入浴の予定表があり週2回実施している。入浴拒否があった場合は日時や順番を変えて声掛けをしている。火、水、木曜日の他、職員が3人以上勤務している日、行事がある日を代替日としている。	入浴は予定日等によらず、いつでも入浴できるといった情報を提供することで、利用者を選択の機会を作してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で活動・休息の時間を作り、生活のペースがつかめる様努めています。寝具等使用していた物を持参して頂いて安眠して頂けるような環境作りの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表にてご利用者様の服薬内容を把握するよう努めています。また各職員が薬剤提供票を確認し把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様お一人お一人の特性に合ったお手伝いをして頂いております。多彩なレク活動を通じ、楽しみを増やせるよう努め、外出等で気分転換が図れるよう支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、地域への外出、テラスへの出入り等出来るように努めています。	利用者は日常的には近隣周辺の散歩や花の水やり、テラスでお茶を飲んだり、洗濯物を干す手伝いをしている。月1回地域のサロンに参加したり、家族と外食、外泊をすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様の自尊心・自立心を保てるようご家族様と相談しながら金銭の把握に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来たり返信したりやり取り出来るよう支援していきます。希望があれば電話の対応も支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり、季節に合った温度設定に気を配り、一体感のある居住スペースで生活感のある音・匂いは利用者様の安心できる空間になっています。	共用空間は大人らしい雰囲気、清潔感があり居心地の良い空間になっている。居室の外周にあるテラスは、日常の外気浴や緊急時の避難経路として利用できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立感を感じないようその場に適した話題づくりを職員が工夫・展開しています。職員会議や申し送り等で意見交換しご利用者様が思い思いに過ごして頂けるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた物や使い慣れた物を持参して頂き、ご自宅同様に安心して生活が出来るような環境作りに努めています。	家具、寝具、椅子とテーブルを持ち込み、これまでの生活の場が再現されている。書籍や写真、信仰を持つことがわかる、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかり易いように貼り紙をし、移動時は手摺を使用するよう声掛け、段差の無いホールや廊下での転倒防止に努めています。ご利用者様が休息が取れるよう和室や脱衣所・玄関等のベンチを利用されています。		